

# 進化する働き方が、 事業と地域の魅力を高める

## —印刷業から地域プロモーション業へ—



株式会社ユーメディア総務部人材開発チーム

● 西村 聡美

仙台市青葉区錦町公園。秋晴れの空の下に真っ白な巨大テントが浮かび上がります。2019年9月12日、仙台的秋の風物詩となった「杜の都のビールまつり 仙台オクトーバーフェスト」の設営は無事完了。14回目を迎えるビール祭りの初日、開場前からオープニングを心待ちにしたご夫婦や女性グループ、会社員の皆さん、学生たちが列をつくっています。

「秋晴れの中、ドイツ楽団の音楽を楽しみながら、掛け声に合わせて初対面の人たちともカンパイ。このノリと雰囲気病みつきです！」

このうれしい言葉とともに開幕です。仙台オクトーバーフェストは、国際交流に加えて地産地消もコンセプトに据え、10万人規模の集客を誇る地域に愛されるイベントへと成長を遂げました。

仙台でも最大級となるイベントを主催する私たちユーメディアは、「今野平版印刷」として創業し、1992年の社名変更を経て今年で60周年を迎え

ました。もともとは売り上げの100%を印刷物が占めていましたが、IT産業の台頭と印刷市場の縮小を背景にメディアミックスを掲げ、経営の多角化を押し進めました。併せて、これまでの受託事業で培ったイベント運営などのノウハウを生かし、主催・発信する事業としてメディアプロモーション事業を立ち上げています。

### ◆◆◆ 新たな事業形態における人材戦略

私たちは、メディアプロモーション事業を「お客様とともにある、地域活性化の仕掛けとなる主体的な事業」と定義しています。お客様の期待に応えることで培ってきた企画力・提案力と前向きに挑戦する風土が新たな事業の立ち上げを後押ししてきましたが、さらに専門性や挑戦意欲の高い人材の獲得・育成が急務となりました。多様なバックグラウンドや専門性を持つ人材が活躍できる

土壌をつくるべく、ダイバーシティ戦略の中でもまずは女性と若者に焦点を当てた働き方改革を進めていきました。

ユーメディアの働き方改革は育児との両立支援の制度拡充からスタートし、その後は社員がリーダーとなり各部門からメンバーを募った「新しい働き方委員会」が中核を担います。定時退社日を周囲に宣言する「イクメンバッチ」や「リフレックス・アニバーサリー休暇」などの施策を展開し、残業時間の減少や有休消化率の向上に寄与しました。各種メディアへの掲載や働き方に関する表彰の受賞などにもつながり、優秀な人材が集まってきました。

### ◆◆◆ 働き方改革からワークイノベーションへ

一定の成果を上げた働き方改革は、さらに一段ステージを上げ、「ワークイノベーション委員会」へと進化します。過去最大の生産性を指標に掲げ、オフィスリニューアルやリモートワークなどを引き続き社員参画型で推進しています。その他、この組織から生まれた「BLEND<sup>レンド</sup>」では、女性の視点でマーケティングリサーチやブランドディングを行い、お客様の課題に直接貢献しています。地域での注目度は高く、お客様からも「ユーメディアさん、次は何やるの!？」と期待を寄せる声をいただいています。

私たちのワークイノベーションのゴールは、生産性の向上や付加価値の高い仕事により、これまで以上にお客様のお役に立ち、地域全体を盛り上げていくことです。そのため、私たちの働き方の



【ひな壇スペース】「ワークイノベーション委員会」主導でリニューアルしたオフィス。より成果を上げられる空間を社員自身が考え抜きました



【ミーティングスペース】コミュニケーションの活性化と生産性の向上を目指し各スペースを設計。目的に合わせてエリアを選択することができます



多様なメンバーで構成される女性クリエイティブ集団 BLEND A では、お客様の課題解決をお手伝い。BLEND A はラテン語で「まばゆいほど光輝く」の意

私たちの今後の大きなチャレンジです。1社で掲げるにはあまりに大きなビジョンではありますが、この地域には高い志と熱い想いを持った方々がたくさんいます。

2011年の東日本大震災後、私たちは「おもいを、カタチに。みんなを、ゲンキに。私たちのすべては、その実現のために。」というネクストビジョンを掲げ、地域に寄り添いながら復興の道とともに歩んでまいりました。どんなビジョンも事業も、支えているのはそこにいる「人」です。この地域で一人でも多くの人が生き生き働き、暮らすために。私たちの果たすべき役割は何なのかを常に自問し、挑戦し続けます。

ビジョンに賛同してくれる仲間を、社内外に増やしていく発信・取り組みを強化しています。

### ◆◆◆ チャレンジし続ける人事施策

人材ビジョンの一つ、「挑戦し続けるDNA」を胸に掲げながら、仙台オクトーバーフェストの姉妹イベント「バル仙台」や、東北の227市町村の魅力を発信するカフェレストラン「Route227s Cafe」など、新しい事業に挑戦し続ける社員が増えており、彼・彼女らを支える人事施策もまた、挑戦を続ける必要があります。これに加え、地域においては首都圏への人口流出という喫緊の課題がある中で、企業単体ではなく官学や企業間の連

携を深め、エリアとしての魅力を向上させる活動の必要性が高まっています。

地元企業3社で主催した、「JIMOTOコラボインターン」はその取り組みの一つです。2019〜20年にユーメディアと飲食業、エコロジー業を主体とする地元企業の3社で企画・運営した実践型のインターンシップには、約30人の地元大学生が参加し、自分たちで企画したイベントを実行しながら「働くこと」に向き合いました。

他にもユーメディア社長と地元企業の社長との対談を「JIMOTO社長対談」としてコーポレートサイトで発信するなど、地域を巻き込んだ施策に挑戦しています。

### ◆◆◆ 事業が人を育て、人が事業を育てる

若い方から「この地域では挑戦したい仕事ができない」という話をよく聞く一方、「本当は地元や愛着のある地域に貢献したい」という声も聞きます。ユーメディアでは、やりたい仕事は自分たちで生み出し育てていくという発想を大切に、それを支える仕組みやマインドを強化することを重視しています。若い方から大きな裁量権を持つてチャレンジし、お客様や地域の皆さまに磨かれながら新たな事業を生み出していく。そして、その事業がまた挑戦する人材を呼び込み、育てていく。この循環を地域全体に広げていくことが、